

Highlights

学会印象記①

第57回日本アルコール・アディクション医学会総会

白石 光一

東海大学医学部附属東京病院 副院長/消化器内科 教授

はじめに2022年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会を仙台国際センターにおいて9月8～10日に無事挙げてきたことについて、関係の皆様へ心より感謝の意を表したい。新型コロナウイルス感染症禍の難しい舵取りになったが、筆者が会長を務める第57回日本アルコール・アディクション医学会（Japanese Medical Society of Alcohol and Addiction Study：JMSAAS）総会を、第44回日本アルコール関連問題学会（Japanese Society of Alcohol Related Problems：JSARP）総会（会長 石川 達先生）と合同で開催できたことで、大変興味深い内容となった。本総会は、研究成果の発表だけでなく互いに理解し合い協力し合うことが本流となっている。普段は会えない分野の異なる研究者、医療者1,000名以上が、現地、オンラインに集い、顔を合わせて思いを分かち合いながら躍動することができた。異種格闘技ではなく、多職種協力と理解のかたちが総会においても実現したと感じる。

両総会合わせてシンポジウムは31（JMSAAS 18, JSARP 12, 合同企画 1）、一般演題は105に上り、ほとんどが現地発表であった。今回は、筆者が消化器内科専門であることから、教育講演やシンポジウムにアルコール臓器障害に関する企画ができた。本学会の特徴

であるアルコール・薬物依存基礎研究と臨床や支援、ゲーム依存、ギャンブル依存、行動嗜癖、物質使用障害など、多岐にわたるセッションが目白押しで、あたかも豪華な松花堂弁当状態であった。ただ、すべてに参加することは不可能であり、有益な演題を見逃してしまう状況であったため、オンデマンドで視聴可能にしたところ延べ約6,060回の配信が記録された。

最後に、会長講演では、座長の齋藤利和先生の巧みな進行でJSARP総会会長の石川先生と筆者の2人でアルコール依存症臨床における精神科医、内科医としての思いの丈を述べた。アルコール依存症をはじめとする依存症患者と家族には「見捨てない、諦めない、回復を待ち続ける」ことが重要であること、そして私たちのこころ、まなざし、医療、研究が一層必要であることを確信して総会を終えることができた。



写真1. 特設ホームページ画像



写真2. JMSAAS理事会



写真3. 会場の様子